

Q28 きちんと叱るにはどうすればいい？

ボランティアであっても、子どもの望ましくない行動は叱ることが必要だと思うのですが、どのように叱ればいいのでしょうか？

ポイント

きちんと叱るには、感情をぶつけるのではなく、「何をしてはいけないか」を伝える叱り方をしたいものです。あわせて「何をしたかったの？」と、子どもの気持ちも確認しましょう。また、子どものトラブルや叱ったことは、担任の先生に報告するようにしましょう。

①「感情をぶつける=叱る」ではない

危険な行為をしている時や、本人、周囲の子どもや大人がけがをしてしまいそうな時には、安全確保を優先するためにも、叱ることが必要です。

でも、「何しているの!!」「またやって!」「何度言ったらわかるの!」などの叱り方は望ましくありません。そのような感情だけをぶつける叱り方をすると、子どもが反発したり、嫌な気持ちになったりするだけになってしまいます。遠くから怒鳴る叱り方ではなく、本人に寄り添って叱るようにしましょう。

②「私が叱る」という自覚を持って叱ることが大切

「そんなことすると先生におこられちゃうよ」といった言葉で望ましくない行動を制止しようとする時、「何がなぜいけないのか」「何をすることが正しいのか」が伝わりにくくなってしまいます。また、そのような叱り方を続けると、子どもとの関係性を築きにくくなってしまいます。叱る時には、「私が叱る」ようにしましょう。

③「何をしてはいけないか」「なぜいけないのか」を伝える叱り方を

頭ごなしに叱りつけるのではなく、「何をしてはいけないのか」を伝えるように「○○はしてはいけません!」と具体的に叱るようにしましょう。

また、なぜそのようなことがいけないのかという理由をわかりやすく伝えることが大切です。子どもの目を見ながら、きっぱり、短く叱るのがポイントです。

🗨️「何をしたかったの？」と、子どもの気持ちをとらえる

また、叱ると同時に「ほんとうはどうしたかったのかな？」と聞いてみることも必要です。

特に発達障害のある子どもたちは、まだまだ行動のレパートリーが少ないので、目的自体は適切であっても、方法ややり方が間違っている場合もあるのです。まずは、どうしたかったのかという思いを確認してあげましょう。もしその思いは順当なのに方法が間違っているのであれば、「そうしたかったのなら、こんなふうにするといいよ（こんな方法もあるよ）」と、修正してあげましょう。

🗨️「ダメダメ」ではなく、どうしたらいいかを伝える

「〇〇してはダメ」と言うだけではなく、どのようにしたらいいのかを伝える叱り方をしましょう。「ダメダメ」だけの叱り方では、子どもにすれば「じゃあ、どうすればいいの？」「いつもダメじゃん……」という気持ちになってしまい、自分の要求が通らないという思いばかりを募らせて、どのようにすればいいかを学べないままになってしまいます。

ワンポイントアドバイス 叱るだけではダメ

叱ることは、子どもを責めることでもなければ、大人の都合で言うことをきかせることでもありません。「正しいことを理解してもらう」ために、「適切な行動を学んでもらう」ために叱るのです。

また、叱るだけになってしまうと、子どもは「叱られないために行動する」ことを学んでしまいます。やがて、「叱られないと行動しない」ことにもなってしまいかねません。

叱るだけでなく「ほめる」ことも意図的に行うことが大切です。